野上君の処女戯曲

岸田國士

青空文庫

「夢を喰ふ女」は野上彰君の最初の戯曲だといふことだが、私は作者自身に朗読してもらひ、第一幕ですでにその凡手でないことを感じ、ところどころ散漫な部分はあるにはあるが、ともかく、最後まで楽しんで聴くことができた。かういふことはめつたにないことである。私は、文句なく及第点をつけた。そのことが作者にとつていゝことであることを祈る。文学座が衆議一決、これを上演目録の中に加へたことも、私の口添へといふよりは、この作の力であると信じる。まづまづ面白くなりさうな芝居である。

どこが面白いかと云へば、なによりも作者が芝居を愛し、ある程度芝居といふものを心得てゐて、舞台の魅力がよつて生じるさまざまな条件をほどよく塩梅し、決して卑俗に堕しない程度に、今日の観衆の趣味に投じようとしてゐることである。

ところで、作者はもちろん、多くの作者がさうであるやうに、自分の「好み」をもなかなか強引に押通さうとしてゐる。この「好み」はやゝもすると観衆を戸惑ひさせるかも知れない。何分にもこの作者は性急な感覚追求者である。

然しながら、作品の主題たる「夢を喰ふ女」のイメージは、「夢」そのものの平凡さにもかゝはらず、「精神的貪らん」といふ女性心理の一タイプとしてみごとに立体化されてゐる。観察の豊かさがこゝではものをいつてゐる。殊に女主人公を中心とする崩壊する「家」のすがたが非常に興味ある角度から捉へられ、人物の絵模様ともいふべき印象的な現代風景を浮び出させ

てゐることは、作者の詩人としての素質をも遺憾なく示したものと云へよう。

第二作はもう一層沈潜したものゝ上に築かれることを希望して、この作者の処女作の出来栄えに敬意を表することにする。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集27」岩波書店
　1991（平成3）年12月9日発行
底本の親本：「劇作　第九号（通巻一一三）」
　1948（昭和23）年3月15日
初出：「劇作　第九号（通巻一一三）」
　1948（昭和23）年3月15日
入力：tatsuki
校正：門田裕志
2010年5月21日作成
2011年5月30日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

野上君の処女戯曲

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/